

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童・生徒

小学校調査：小学校第6学年

中学校調査：中学校第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童・生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校調査：国語、算数、理科

中学校調査：国語、数学、理科^{※1}

^{※1}中学校理科は、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施

・出題内容は、それぞれ次の(ア)(イ)を一体的に問うもの。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

(4) 調査の方式

該当学年すべての在籍児童・生徒

(5) 調査日

令和7年4月17日（木）

2 公表の内容

(1) 市教育委員会

ア 全国・東京都・府中市の教科別の平均正答率及び中央値

イ 分析（主に成果や課題があった設問）及び学力向上を図るための改善策等

ウ 児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査から抜粋した設問と選択肢毎の回答状況

(2) 学校

ア 全国・東京都・府中市・学校の教科別の平均正答率及び中央値、無解答率、学習指導要領の領域別正答率、成果や課題があった主な設問

イ 分析及び学力向上を図るための取組等

(3) 個人票の扱い

学校での活用終了後、児童・生徒に配布する。その際、個人面談をするなど、結果に基づく児童生徒の学習の課題解決のための資料とする。

(4) 学校による調査結果の分析

調査目的を踏まえ、各学校が自らの教育活動の成果と課題を把握し、その改善のために活用を図る。

3 調査結果に基づく学力向上に向けた府中市教育委員会の取組について

(1) 小学校、中学校別に分析のための資料を配布し、各校での結果分析、課題把握、改善策の検討等を推進する。

(2) 「府中市立小・中学校 教育課程編成に向けたグランドデザイン」について、4つの視点「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を重視した教育活動の充実を図るため、学力向上プロジェクトチームにおいて、府中市の課題に応じた指導方法等に関する資料を作成し、教員の授業改善を図る。また、教務主任会や府中市教育研究会と連携し、各教科等の研修会を充実させ、教員の指導力向上を図る。

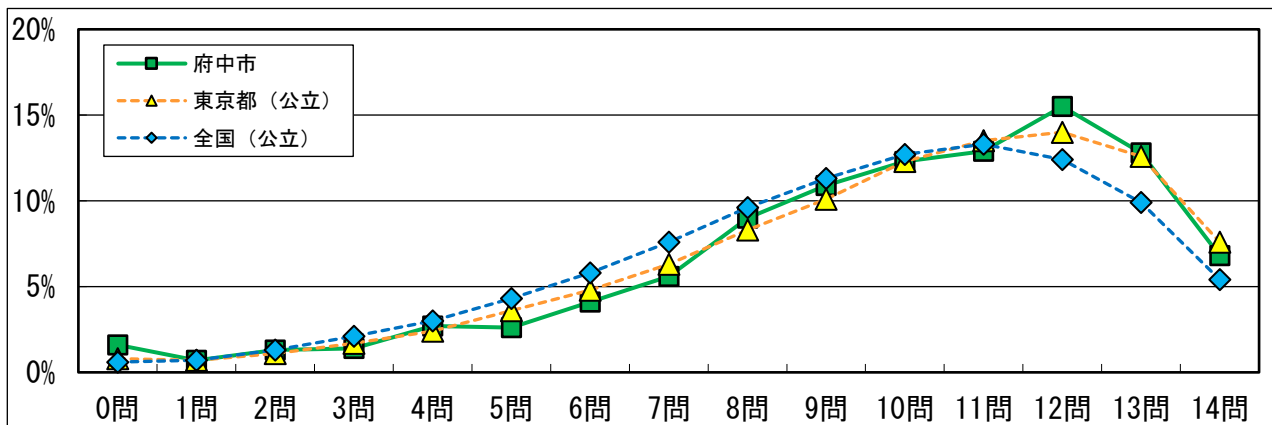
(3) デジタル教科書や学習支援ツール等を効果的に活用したICT活用事例の収集及び共有や教員のICTを活用した指導力の向上を図る研修の充実、児童・生徒が日常的にICTを活用できる環境整備、ICTを効果的に取り入れた授業実践を推進し、タブレット端末の効果的な活用に向けた授業改善を促す。

(4) 家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習を視野に入れた指導を推進し、学校や地域・保護者に対し、家庭学習の重要性について周知・啓発する。

(5) 研究主任会において、各学校の校内研究を推進していく上での課題等について、協議・検討及び情報交換や市内研究推進校等の取組発表を行うとともに、研究協議の在り方や研究主題・研究仮説の設定等に関する講義を通して、教員の指導力向上を図り、児童・生徒の資質・能力の向上につなげる。

小学校国語

小学校 国語	平均 正答率 (%)	中央値 14問中	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			R6 小学校	平均 正答率
			言葉	情報の扱い	言語文化	話・聞	書く	読む		
府中市	70	10	78.8	68.8	82.8	69.4	73.3	59.8	府中市	69
東京都	70	10	77.9	66.9	83.8	69.9	72.4	61.0	東京都	69
全国	66.8	10	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	全国	67.2



【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			市府中	都東京	全国	市府中	都東京	全国
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	64.5	62.1	61.3	4.9	5.9	5.0
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	45.4	47.0	40.8	7.1	4.7	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	56.4	56.5	56.3	19.9	19.9	16.2

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること(問2三)について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、「書くこと」において、目的や意図に応じて表現方法を適切に調整する力が定着している傾向がある。
- △ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること(問3三(1)(2))について、平均正答率は全国よりも高いが都よりも低く、無回答率は都・全国と同様か全国より高いことから、「読むこと」において、目的意識をもって読み取ることや文章から必要な情報に着目する力については、十分に力が発揮されていない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

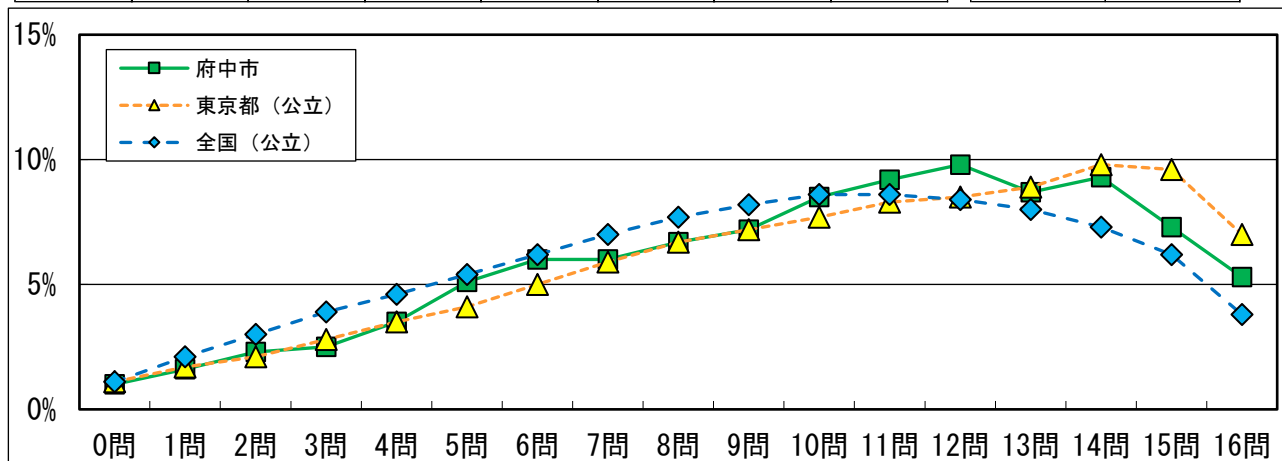
「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・児童数の割合	市・国語平均正答率
よくしている	30.0	77.1
どちらかといえぼしている	48.5	70.2
あまりしていない	17.4	60.4
全くしていない	3.8	58.0

文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。また、必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることを大切である。授業では、複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係があるのか考えながら読む指導を行うことが効果的である。

小学校算数

小学校 算数	平均 正答率 (%)	中央値 16問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)					R6 小学校	平均 正答率 (%)
			数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用		
府中市	62	10	66.6	59.6	58.0	62.9	67.1	府中市	67
東京都	64	10	68.3	61.2	60.5	64.9	67.6	東京都	68
全国	58	10	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	全国	63.4



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	87.6	86.9	82.8	3.5	3.0	2.6
3 (2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	25.8	29.7	23.0	15.9	16.2	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	39.9	45.8	35.0	7.8	8.5	7.8

【教科に関する調査から分かったこと】 ()は問題番号

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと (問4(1)) について、平均正答率は都及び全国よりも高いことから、数量の関係性の理解や数量の把握に基づき問題を解決する力が定着している傾向がある。
- △ 小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察すること (問3(2)) や、分数を単位分数の幾つ分と捉えて数直線上に表すこと (問3(3)) について、平均正答率は全国よりも高いが都よりも低いことから、小数や分数の仕組みや意味を考える力は、理解の深まりに課題が見られる傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

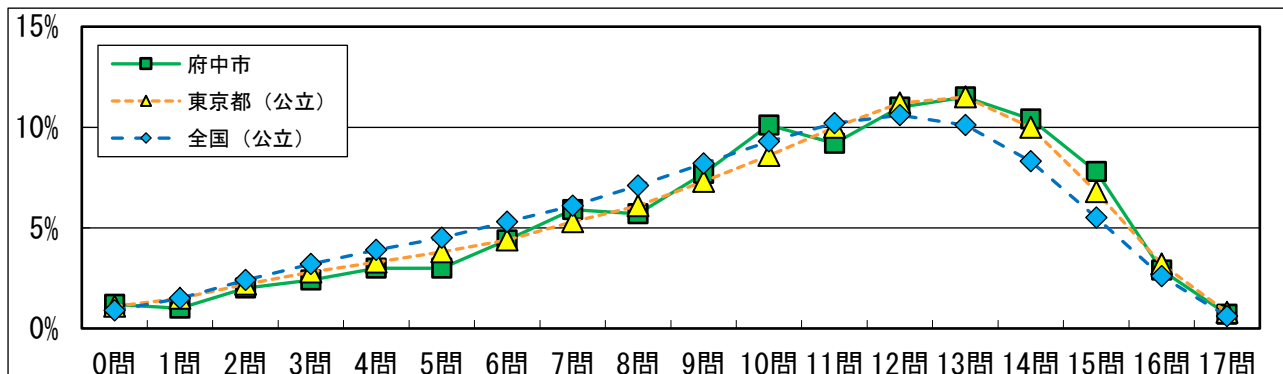
「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・児童数 の割合	市・算数 平均正答率
当てはまる	32.4	72.5
どちらかといえば 当てはまる	34.7	62.0
どちらかといえば 当てはまらない	23.8	54.3
当てはまらない	8.9	47.8

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目することが重要である。授業では、0から1までが何等分されているのに着目して、単位分数を捉えることができるようにするとともに、言葉や図・表、式などを関連付けながら表現できるようにすることが大切である。

小学校理科

小学校 理科	平均 正答率 (%)	中央値 17問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				R4 小学校	平均 正答率 (%)
			エネルギー	粒子	生命	地球		
府中市	60	11	50.4	54.1	54.8	70.7	府中市	67
東京都	60	11	49.9	53.7	54.1	69.1	東京都	65
全国	57.1	10	46.7	51.4	52.0	66.7	全国	65.3



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかを見る	83.0	80.8	77.8	1.4	1.3	0.9
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る	45.7	46.8	42.9	1.2	0.9	0.6
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかを見る	49.9	49.9	50.6	7.4	7.8	6.1

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶこと(問1(3))について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、実験・観察の結果を根拠にして考えを形成する力が定着している傾向がある。
- △ 電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶこと(問2(2))や水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書くこと(問4(1))について、他の問いと比べて平均正答率は低いことから、条件をもとに論理的に考える力や、問題解決のために必要な情報に着目して記述する力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

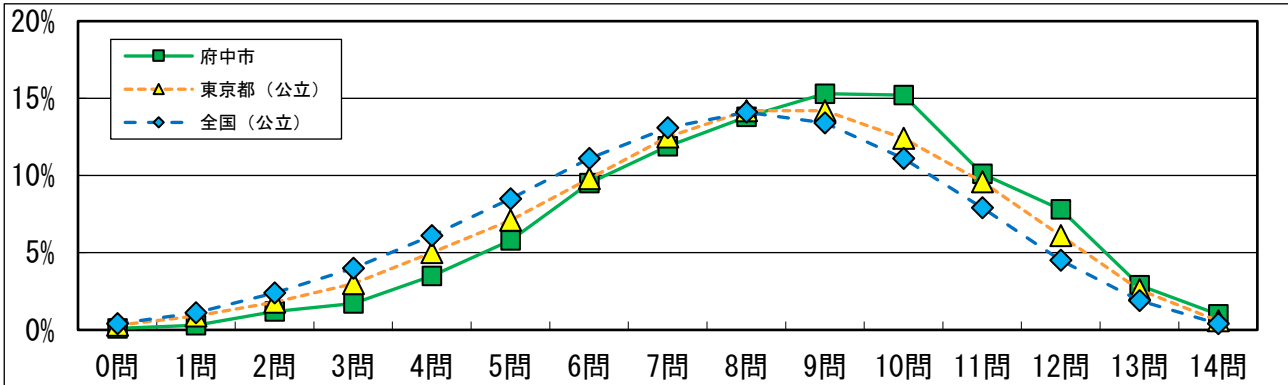
「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」や「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向がある。

	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか		理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	
	市・児童数の割合	市・理科平均正答率	市・児童数の割合	市・理科平均正答率
当てはまる	31.9	65.9	32.5	65.4
どちらかといえば当てはまる	36.7	59.6	41.0	61.0
どちらかといえば当てはまらない	21.8	57.1	20.4	56.6
当てはまらない	9.5	56.2	5.9	47.1

解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して理解を深めることが大切である。授業では、児童が明確な目的を設定し、設定した目的が達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが大切である。

中学校国語

中学校 国語	平均 正答率 (%)	中央値 14問中	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			R6 中学校	平均 正答率
			言葉	情報の扱い	言語文化	話・聞	書く	読む		
府中市	61	9	53.7			59.1	60.3	67.3	府中市	62
東京都	57	8	51.7			55.0	56.5	65.0	東京都	61
全国	54.3	8	48.1			53.2	52.8	62.3	全国	58.1



【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
2 二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものと適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	85.3	80.8	77.9	0.1	0.3	0.3
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	39.0	34.0	31.0	0.9	1.4	1.6
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	37.2	34.2	30.1	11.6	15.9	19.1

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 他者の発言を参考にして、自らの考えをまとめたり、深めたりすること(問1四)や、物語の場面ごとに、その状況について把握すること(問3二)について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、対話的な学びを通じて思考を広げる力や、文章の構成や登場人物の心情を的確に読み取る力が定着している傾向がある。
- △ 案内文を書く場面において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと(問1四)や、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること(問4二)について、平均正答率は都・全国よりも高いが、他の設問と比べて平均正答率は低いことから、「書くこと」において、文章を論理的に構成したり、読み手に配慮して推敲したりする力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

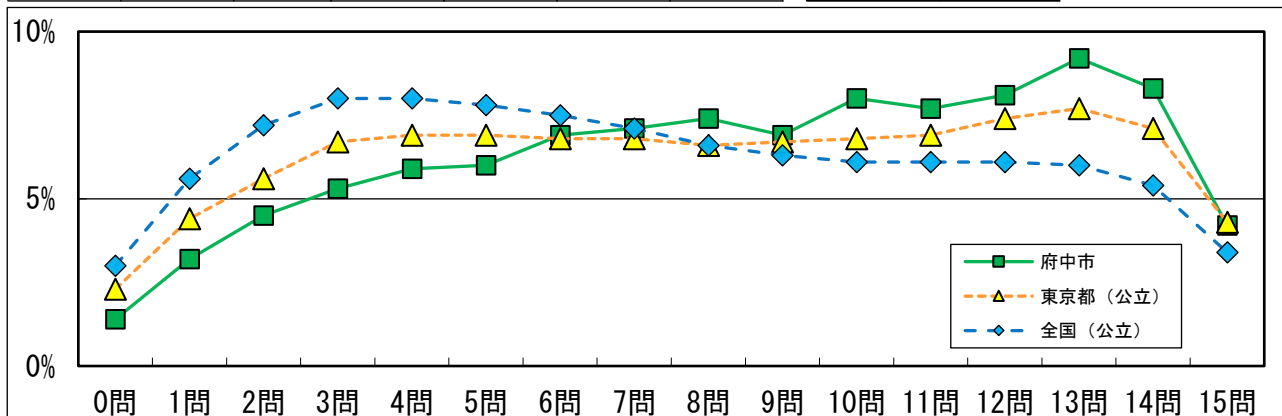
「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

	市・生徒数の割合	市・国語平均正答率
当てはまる	31.8	66.6
どちらかといえば当てはまる	46.2	59.8
どちらかといえば当てはまらない	18.4	54.6
当てはまらない	3.1	50.3

根拠を明確にするためには、自分の考えが事実や事柄に基づいたものであるか確かめることが必要である。授業では、書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切である。

中学校数学

中学校 数学	平均 正答率 (%)	中央値 15問中	学習指導要領の領域別平均正答率 (%)				R6 中学校	平均 正答率
			数と式	図形	関数	資料の活用		
府中市	57	9	50.9	56.1	58.8	66.1	府中市	57
東京都	53	8	49.1	51.4	52.4	63.1	東京都	54
全国	48.3	7	43.5	46.5	48.2	58.6	全国	51



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「ゲー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる	85.2	81.1	77.4	1.3	2.8	3.2
9 (2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	50.1	44.0	36.3	5.6	6.9	7.2
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	44.4	39.1	33.2	21.7	27.9	31.5

【教科に関する調査から分かったこと】 ()は問題番号

- 必ず起こる事柄の確率を求めること (問7(1)) について、平均正答率は都・全国よりも高いことから、「データの活用」における基礎的な知識及び技能をもとに、事象を論理的に考察する力が定着している傾向がある。
- △ 統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること (問9(2)) やある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること (問9(3)) は平均正答率は都・全国よりも高いが、他の設問と比べて平均正答率は低く、無回答率も高いことから、証明の構造を捉えて柔軟に思考したり、自分の考えを根拠をもって表現したりする力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

	市・生徒数の割合	市・数学平均正答率
当てはまる	19.0	65.7
どちらかといえば当てはまる	38.4	59.5
どちらかといえば当てはまらない	30.4	54.3
当てはまらない	11.7	42.5

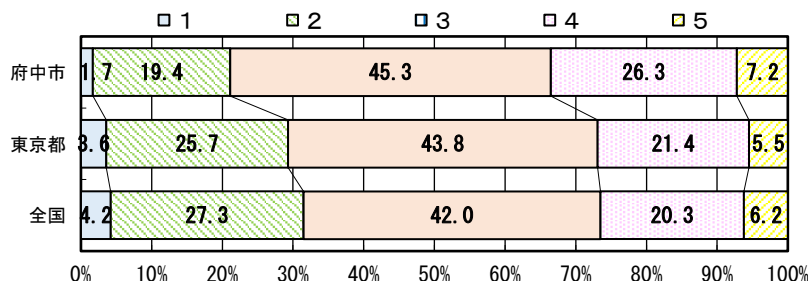
授業では、証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。また、証明の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

中学校理科

中学校 理科	IRT スコア	標準偏差	IRTバンド [※] 集計値 (%)				
			1	2	3	4	5
府中市	530	114.5	1.7	19.4	45.3	26.3	7.2
東京都	506	117.9	3.6	25.7	43.8	21.4	5.5
全国	503	124	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2

R4 中学校	平均 正答率 (%)
府中市	53
東京都	51
全国	49.3

(IRT バンド分布図：IRT バンド集計値の生徒の割合)



「IRTスコア」とは、問題の難易度を考慮して算出された生徒の理解度を示す値であり、500を基準とする。また、「IRTバンド」とは、算出された値を、一定の範囲ごとに区切って分類したものであり、バンドが高いほど生徒の理解度は高い。

このIRTバンドの結果から、府中市は都・全国と比べて平均スコアが高く、生徒間の学力差を表す標準偏差も比較的小さいことから、全体的に学力が高く、生徒間の学力差が小さいと考えられる。

【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)			無解答率 (%)		
			府 中 市	東 京 都	全 国	府 中 市	東 京 都	全 国
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	86.9	80.3	79.4	5.2	9.4	9.9
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	51.2	52.0	51.9	0.1	0.2	0.2
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	26.6	35.1	34.9	0.0	0.3	0.2

【教科に関する調査から分かったこと】 ()は問題番号

- 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現すること (問1(6))で、平均正答率は都・全国よりも高く、無回答率も低いことから、探究の過程で得た気づきを自分の言葉で整理し、生活とのつながりを意識して表現する力が定着している傾向がある。
- △ 回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けること (問1(1))や、仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、既習の知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想すること (問3(1))の平均正答率は都・国より低いことから、基礎的な知識の理解や、それを活用して科学的に考察・予想する力が十分に定着していない傾向がある。

【質問紙調査から分かったこと】

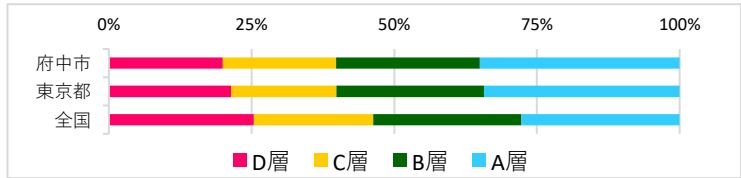
「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均IRTスコアが高い傾向がある。

	市・生徒数 の割合	市・理科 平均IRTスコア
当てはまる	16.0	584
どちらかといえば 当てはまる	40.5	535
どちらかといえば 当てはまらない	29.7	516
当てはまらない	13.5	482

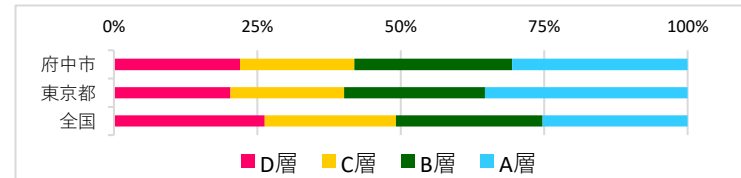
授業では、指導に当たってこれまで学習した知識と新たな知識を関連づけるなど、知識の概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。その際には、身近な生活と関連をもたせながら、生徒の興味・関心を向上させることも大切である。

■小学校各教科 四分位による各層の割合

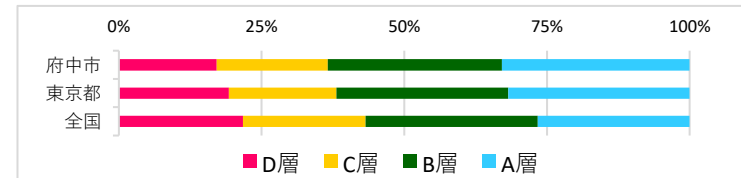
国語	D層	C層	B層	A層
府中市	20.0%	19.9%	25.2%	35.1%
東京都	21.4%	18.4%	25.8%	34.2%
全国	25.4%	20.9%	26.0%	27.7%



算数	D層	C層	B層	A層
府中市	22.0%	19.9%	27.5%	30.6%
東京都	20.3%	19.8%	24.5%	35.3%
全国	26.3%	22.9%	25.6%	25.3%

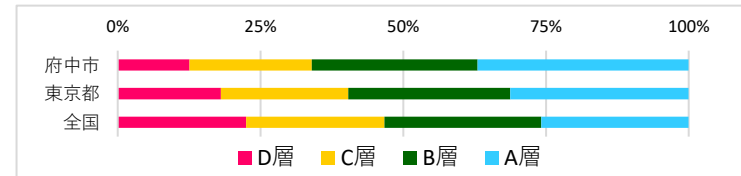


理科	D層	C層	B層	A層
府中市	17.0%	19.3%	30.3%	32.6%
東京都	19.1%	18.7%	29.8%	31.5%
全国	21.7%	21.4%	30.1%	26.5%

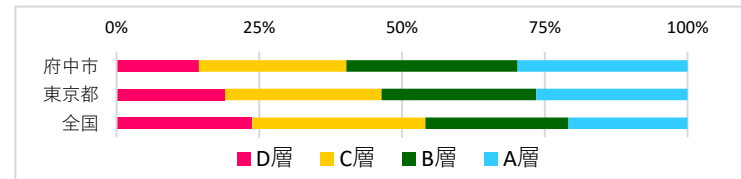


■中学校各教科 四分位による各層の割合

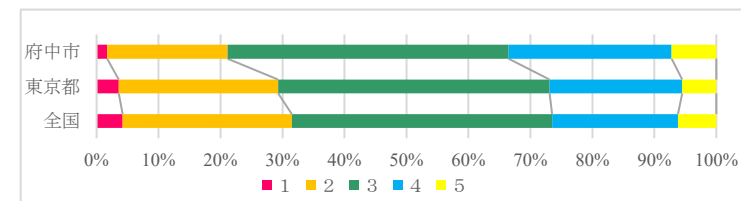
国語	D層	C層	B層	A層
府中市	12.6%	21.4%	29.1%	37.0%
東京都	18.1%	22.3%	28.4%	31.3%
全国	22.5%	24.2%	27.5%	25.8%



数学	D層	C層	B層	A層
府中市	14.4%	25.9%	30.0%	29.8%
東京都	19.0%	27.4%	27.0%	26.5%
全国	23.8%	30.4%	25.1%	20.9%



理科	生徒数	割合(%)		
		府中市	東京都	全国
IRTバンド				
5	129	7.2	5.5	6.2
4	469	26.3	21.4	20.3
3	806	45.3	43.8	42.0
2	346	19.4	25.7	27.3
1	30	1.7	3.6	4.2



※中学校理科は IRT バンド集計値及び分布図で表しています。

四分位による各層の割合では、A層・B層の割合が都や全国より高く、上位層の児童・生徒が多い。特に小学校理科、中学校国語・数学・理科ではA層の割合が都及び全国の平均を大きく上回っており、応用的な力まで発揮できる児童・生徒が多い。一方、D層も一定数を占めており、基礎的な内容の理解や定着に課題がある児童・生徒も見られる。

今後は、上位層の力をさらに伸ばすとともに、下位層への個に応じた指導及び支援を充実させ、全体の学力向上を図ることが重要であると考えます。

【A層、B層、C層、D層について】

各層は、調査者を正答数の大きい順に整列し、推計した人数比率により25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称したものである。(上記の表及びグラフは従来のデータと比較しやすくするため、各層の境界値とする四分位数を、東京都を基準にして作成している。)

【IRTバンド集計値及び分布図について】

IRTバンドとは、IRTスコアをもとに、生徒の理解度を5段階に区分したものである。また分布図は、学校全体や地域ごとの生徒の学力分布を視覚的に示すものであり、例えば、バンド3に属する生徒が多ければ、標準的な理解が定着していると判断することができる。

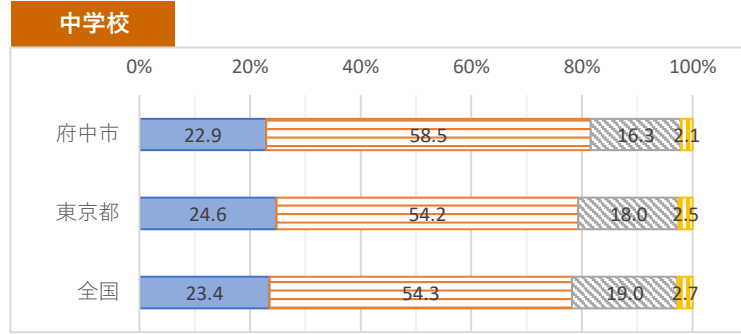
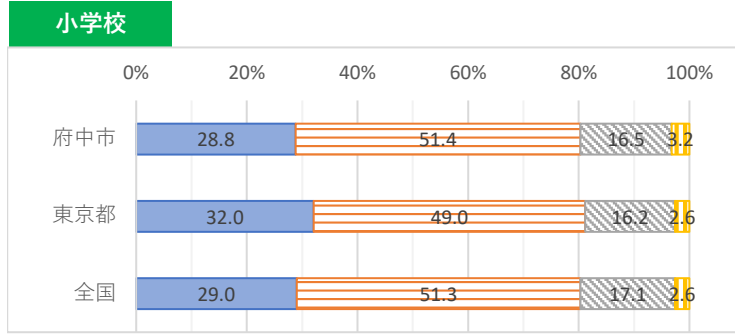
1 児童・生徒質問紙から (1)主体的な学び

5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

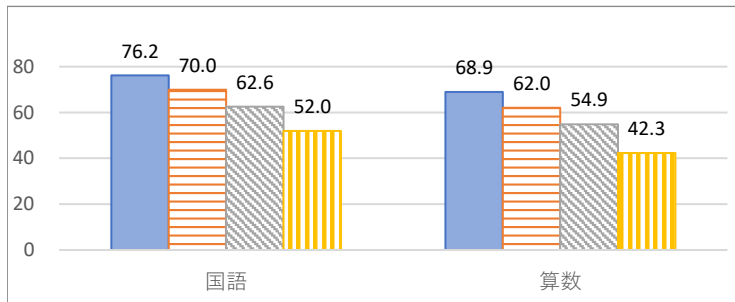
設問項目 小学校 (32) 中学校 (32)

【主体的な学び(学習の進め方)】

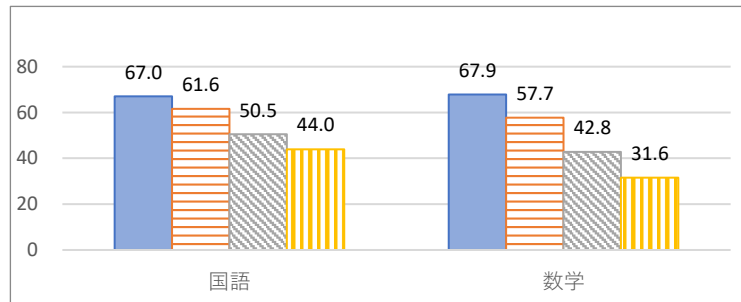
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率

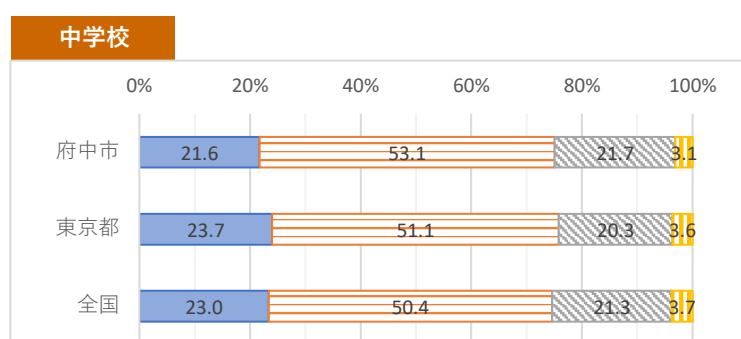
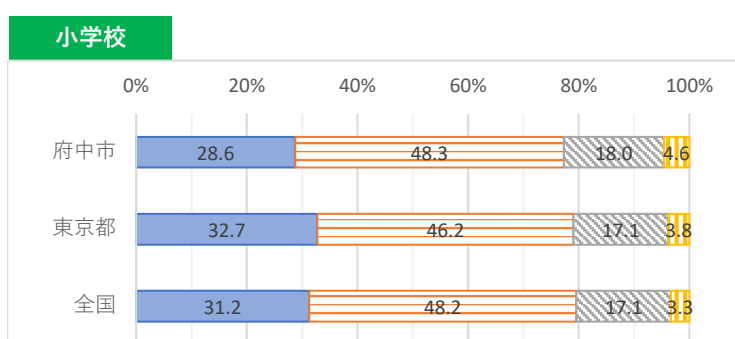


学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

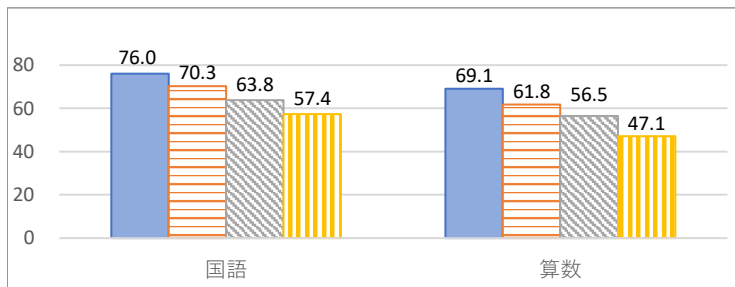
設問項目 小学校 (36) 中学校 (36)

【主体的な学び(学習の調整)】

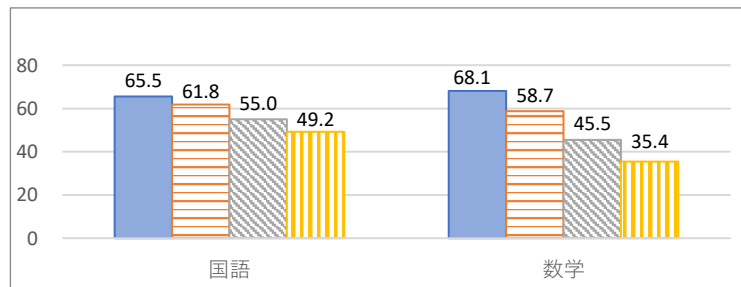
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率



学習の進め方（工夫しながら学習を進める）では、肯定的な回答が小学校は都及び全国とほぼ同様で、中学校は都及び全国より高く、課題解決に向けて見通しをたて、方法を選択して取り組むなど、自ら考えて課題に取り組む姿勢がある程度定着している。

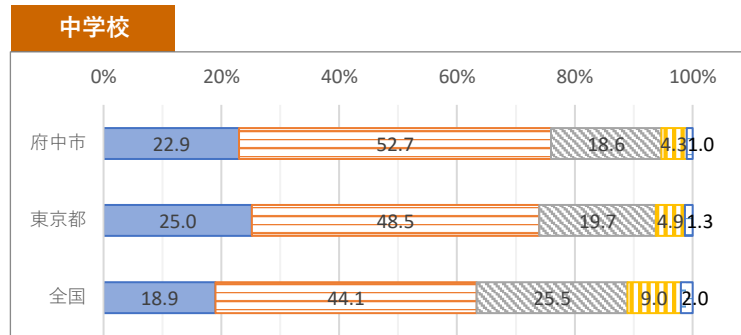
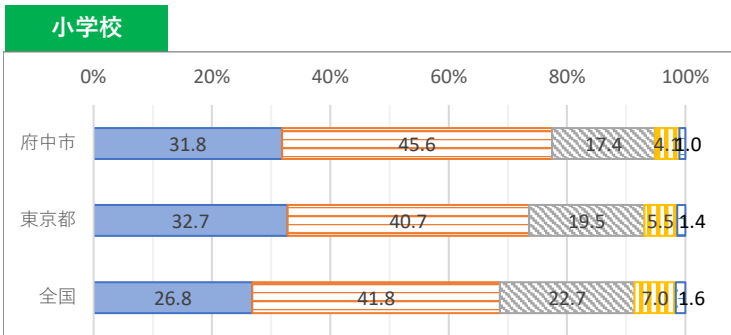
学習の調整（自己の学習状況を把握し調整すること）については、小学校は都及び全国より低く、中学校は都とほぼ同様で全国より高い。授業では、児童・生徒が主体的に目標や課題を発見し、学習の見通しを立てて実践したり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫することで、課題解決に向けて集団や自己の状況を把握・調整する力を育成し、主体的な学びの質を高めることが重要である。

1 児童・生徒質問紙から (2)思考力・判断力・表現力の育成

5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

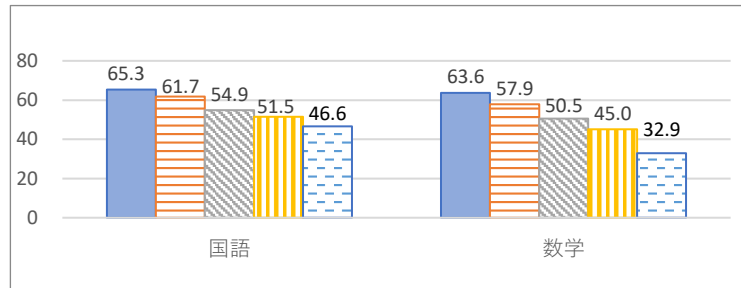
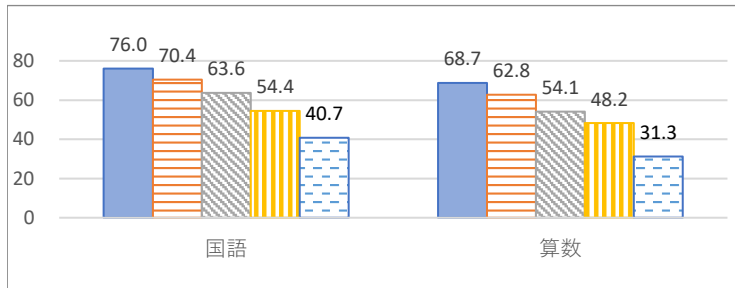
設問項目 小学校 (31) 中学校 (31)

- 1 発表していた
- 2 どちらかといえば、発表していた
- 3 どちらかといえば、発表していなかった
- 4 発表していなかった
- 5 考えを公表する機会はなかった



選択肢ごとの平均正答率

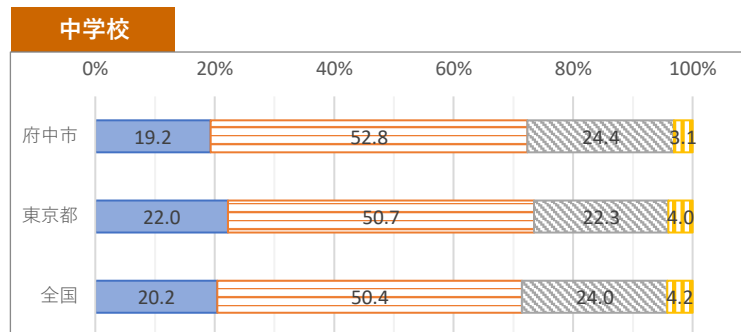
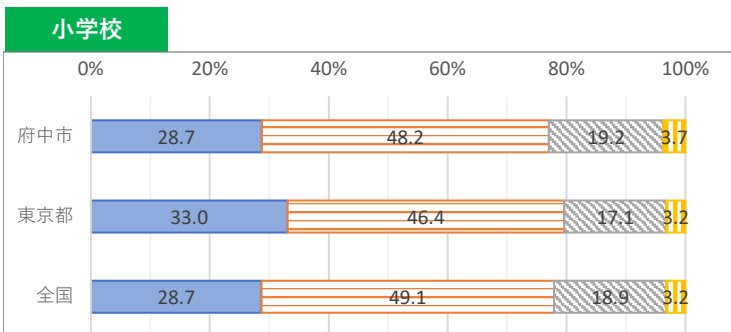
選択肢ごとの平均正答率



5年生まで（1，2年生のときに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

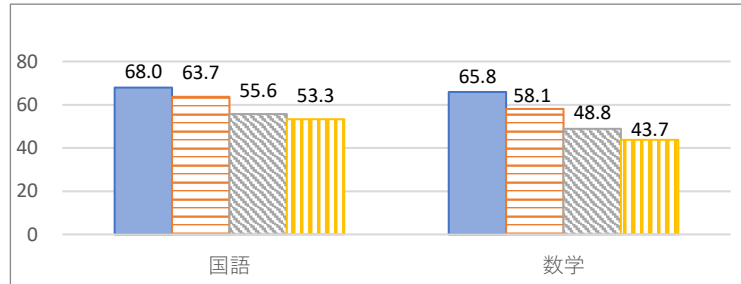
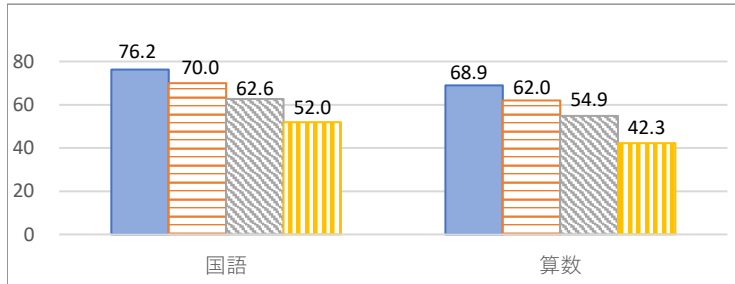
設問項目 小学校 (33) 中学校 (33)

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率

選択肢ごとの平均正答率



小・中学校ともに「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していた」と回答した児童・生徒の割合が都及び全国より高く、授業等の中で自分の考えを公表する機会や、自分の考えをまとめる活動が充実していたと考えられる。特に中学校では、自分の考えをまとめる際に、各教科等で身に付けたことを生かすことができていると考えられる。

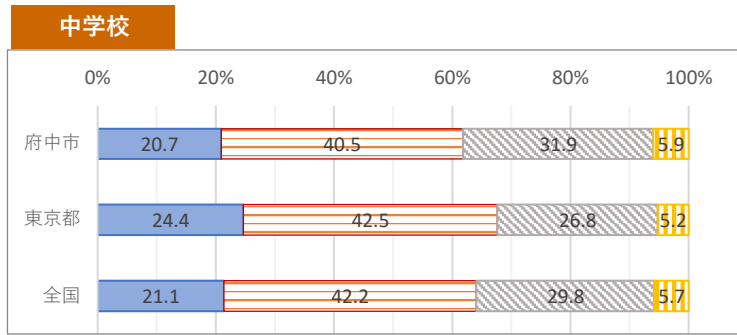
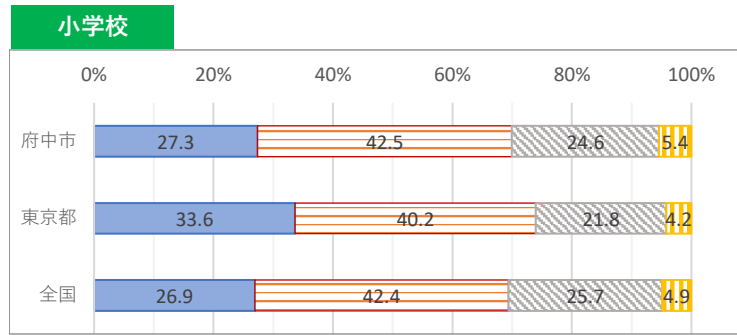
授業では、児童・生徒が課題解決や自己実現に向けて、より目的意識と相手意識をもって自分の考えを伝えることを意識させていくことや、他者との対話を通して多様な考え方や価値観に触れて考えを深めたり、合意形成を図ったりできるようにすることが重要である。

1 児童・生徒質問紙から (3)ICTを活用した学習

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

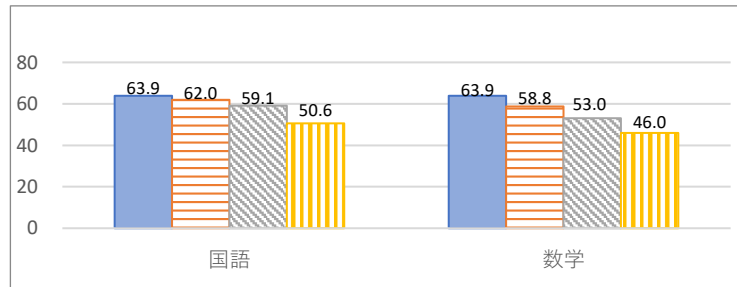
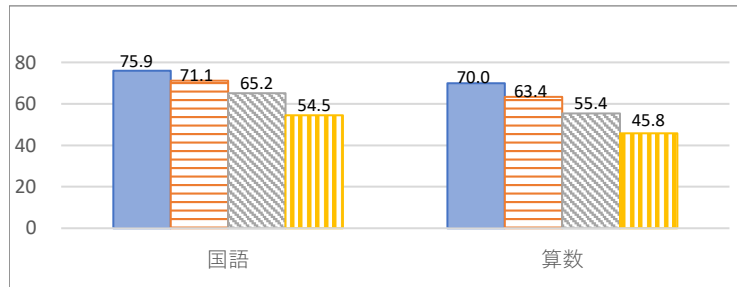
設問項目 小学校 (29) 中学校 (29)

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない



選択肢ごとの平均正答率

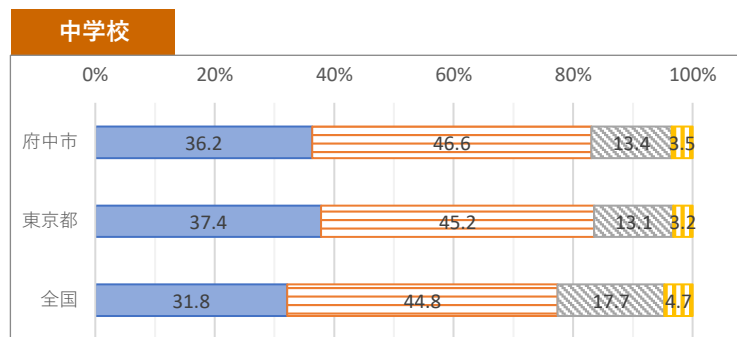
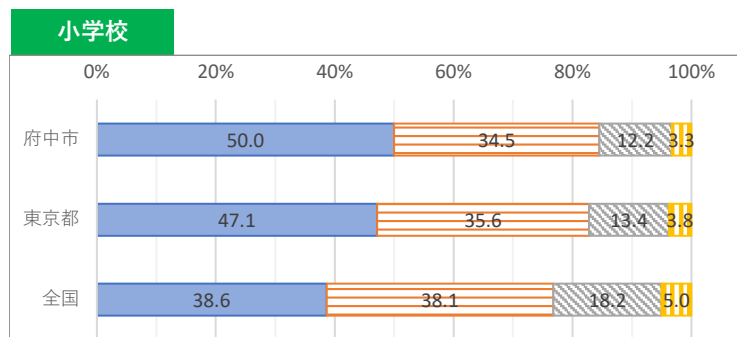
選択肢ごとの平均正答率



あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

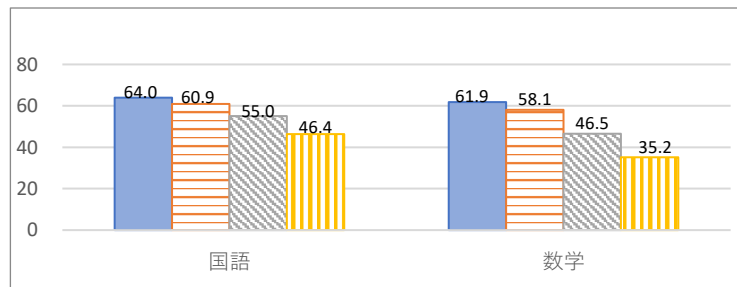
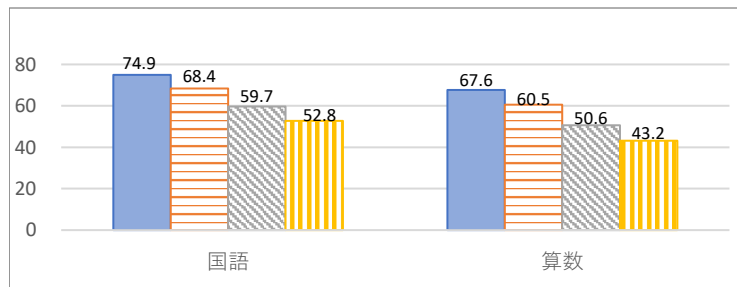
設問項目 小学校 (29) 中学校 (29)

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない



選択肢ごとの平均正答率

選択肢ごとの平均正答率



小学校では、ICT活用に肯定的な回答が都及び全国より高く、中学校では全国と同様または高くなっている。児童・生徒はタブレット端末を使って情報を整理したり、プレゼンテーション資料を作成したりする力が概ね身に付いていると考えられる。

ICT機器活用の効力感に関して、肯定的な回答をしている児童・生徒ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に前向きに取り組んでいた傾向がある。授業では、単にICT機器を使えるようにするだけでなく、児童・生徒が自ら情報を取捨選択し、目的に応じて最適なツールや方法を選び、主体的に活用できる力を育てることや、ICT機器を活用した協働的な学びを通じて、他者と意見を共有し合い、協働して課題解決に取り組む経験を積ませることが重要である。

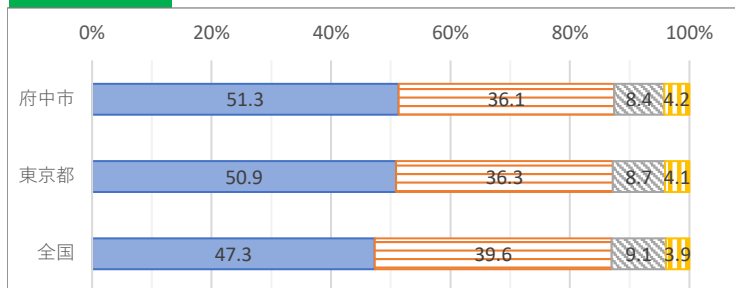
1 児童・生徒質問紙から (4) ウェルビーイングの向上

自分には、よいところがあると思いますか

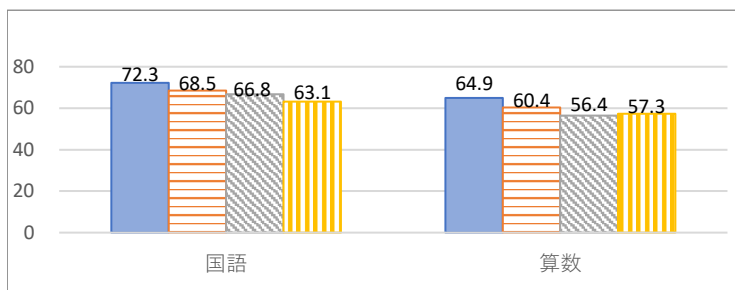
設問項目 小学校 (5) 中学校 (5)

■ 1 当てはまる ■ 2 どちらかといえば当てはまる ■ 3 どちらかといえば当てはまらない ■ 4 当てはまらない

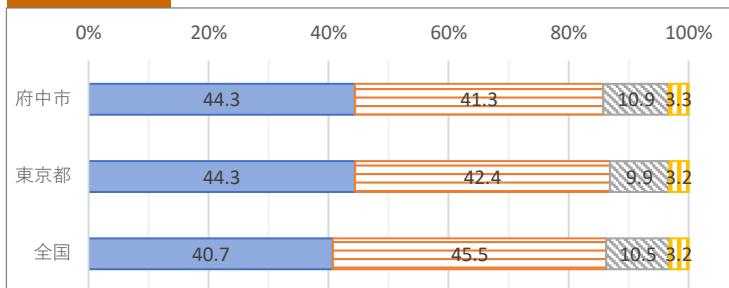
小学校



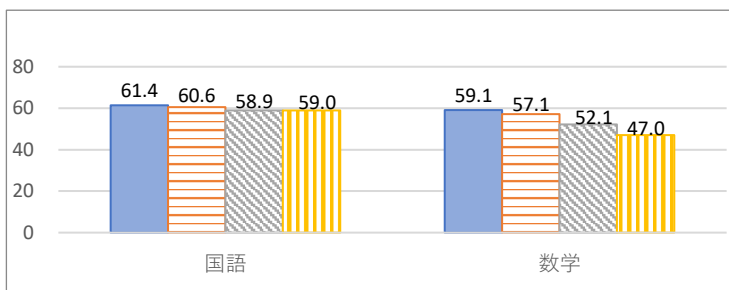
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

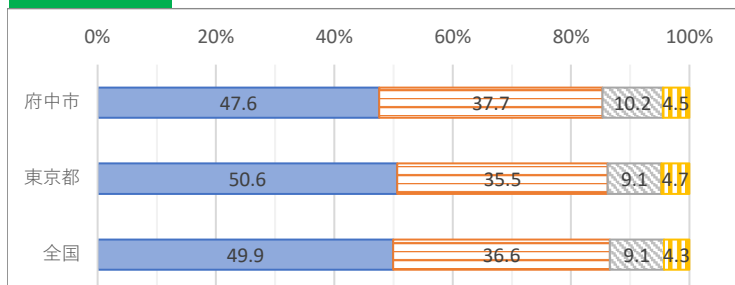


学校に行くのは楽しいと思いますか

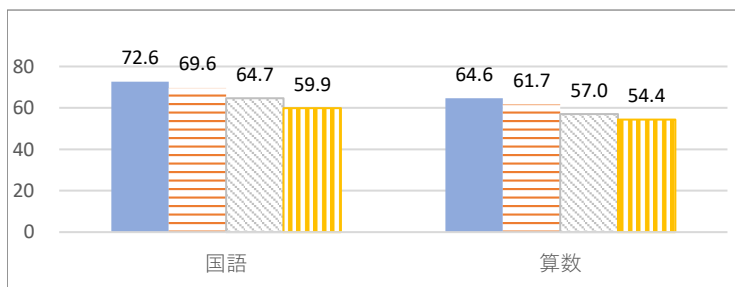
設問項目 小学校 (12) 中学校 (12)

■ 1 当てはまる ■ 2 どちらかといえば、当てはまる ■ 3 どちらかといえば、当てはまらない ■ 4 当てはまらない

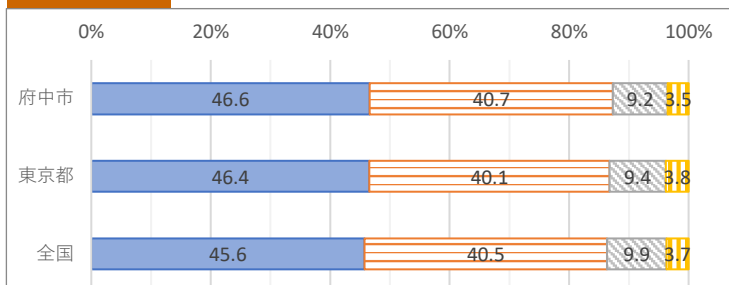
小学校



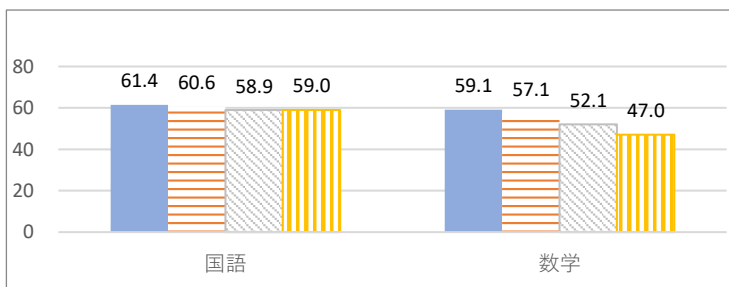
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



小・中学校ともに「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した割合が高く、自己肯定感や学校への満足度は都及び全国とほぼ同様に、高い水準にある。

学校は、児童・生徒が心身ともに健康で、安心して学びに向かえる環境を整えるために、児童・生徒一人ひとりの個性や多様性を尊重し、自己肯定感や自己効力感を高める取組を継続的に行うことが重要である。また、いじめや不登校等の課題の未然防止や早期支援に向けて、適切に対応できる組織的な体制を整えることが重要である。

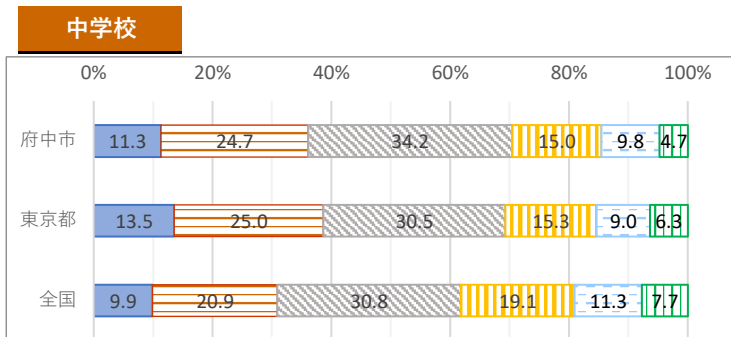
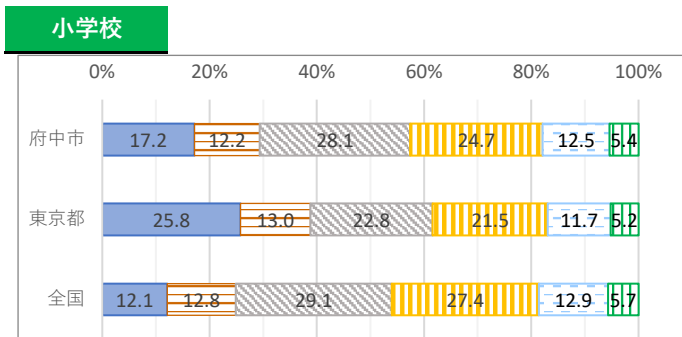
「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味し、学校におけるウェルビーイングの向上を図ることは、児童・生徒の学力向上や主体的な学びを支える土壌を整えることにつながっていく。今後も学校全体で児童・生徒の心理的安全性の確保に務めることが重要である。

1 児童・生徒質問紙から (5) 家庭学習

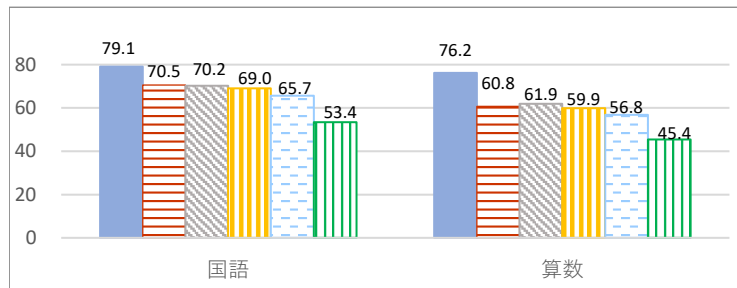
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

設問項目 小学校 (17) 中学校 (17)

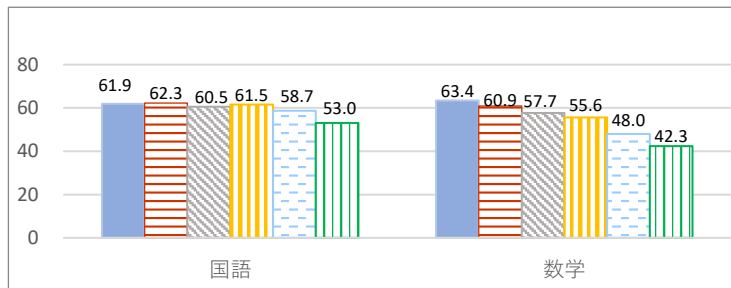
- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない



選択肢ごとの平均正答率



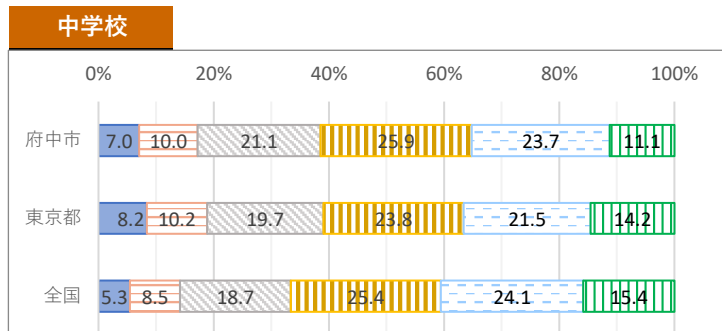
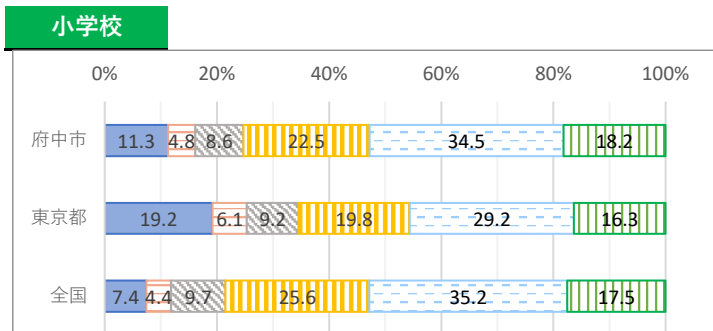
選択肢ごとの平均正答率



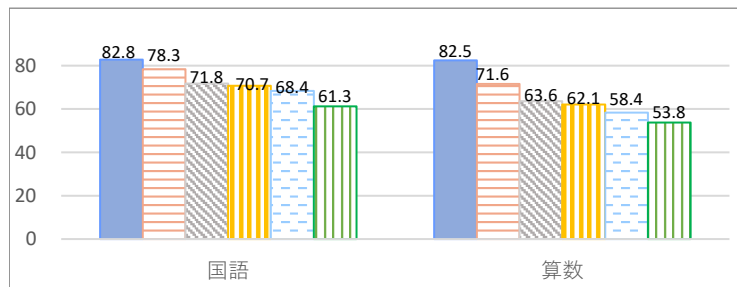
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

設問項目 小学校 (19) 中学校 (19)

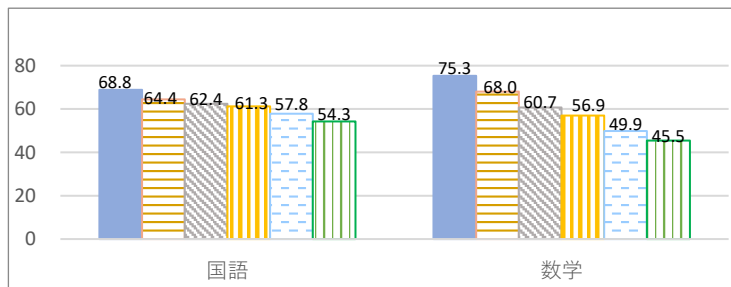
- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率



家庭学習の時間について「平日に30分以上行う」と回答した児童・生徒の割合は、小学校は都及び全国とほぼ同様、中学校は都及び全国より高い傾向にあるが、「全くしない」「30分より少ない」と回答した児童・生徒が一定数いる。特に、小学校では土日など学校が休みの日に家庭学習を「全く行わない」児童・生徒の割合が都及び全国より高い傾向にある。

家庭習慣の確立に向けて、家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促すなど家庭学習を視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた家庭での学習課題を課すことが重要である。また、学習者用タブレット端末の活用による授業と家庭学習の接続など、家庭での学習課題の内容や方法の工夫を講じることも重要である。

2 学校質問紙から 学習指導の改善の取組状況

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

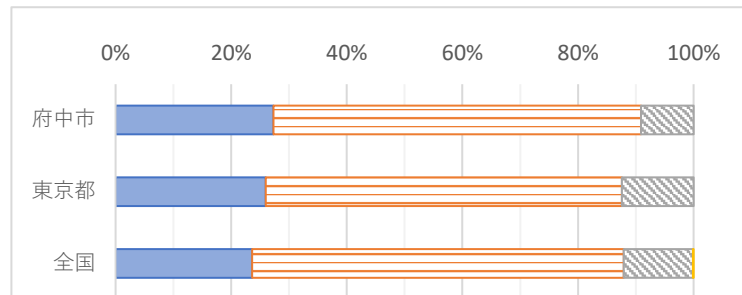
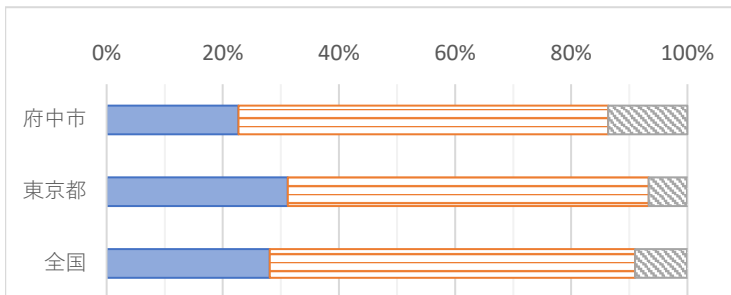
設問項目 小学校 (30) 中学校 (30)

[授業改善の視点]

小学校					
選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	22.7	63.6	13.6	0.0	0.0
東京都	31.2	62.2	6.6	0.1	0.0
全国	28.1	62.9	8.9	0.1	0.0

中学校					
選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0
東京都	26.0	61.6	12.4	0.0	0.0
全国	23.6	64.2	12.0	0.1	0.0

■ 1 よくしている ■ 2 どちらかといえば、している ■ 3 あまりしていない ■ 4 全くしていない



調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

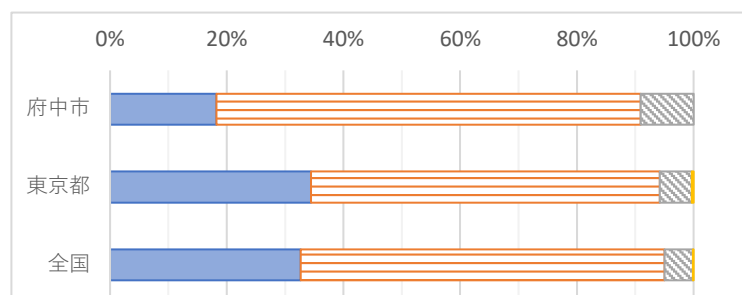
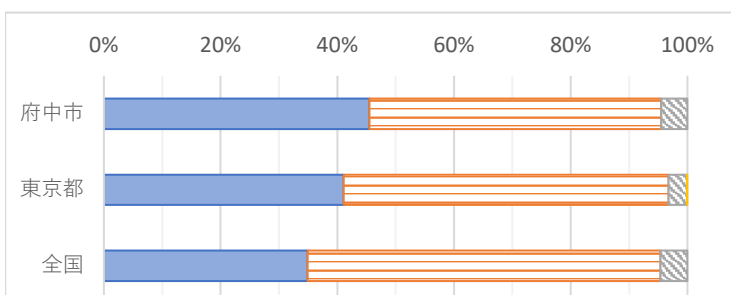
設問項目 小学校 (30) 中学校 (30)

[授業改善の視点]

小学校					
選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	45.5	50.0	4.5	0.0	0.0
東京都	41.1	55.7	3.1	0.1	0.0
全国	34.9	60.4	4.6	0.0	0.0

中学校					
選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	18.2	72.7	9.1	0.0	0.0
東京都	34.4	59.7	5.5	0.3	0.0
全国	32.7	62.3	4.9	0.1	0.0

■ 1 そう思う ■ 2 どちらかといえば、そう思う ■ 3 どちらかといえば、そう思わない ■ 4 そう思わない



学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められており、児童・生徒一人ひとりの理解度や興味・関心、得意なことなどに応じて、学習課題や活動を工夫すること（学習の個性化、指導の個別化）が重要である。

また、他者と意見を交流し、多様な視点を取り入れながら協働して課題解決に取り組む経験は、思考力、判断力、表現力等の育成やコミュニケーションを育むことにつながっていく。

学校では、児童・生徒の多様な学びを支えるために、個別最適な課題設定や活動の工夫を一層推進するとともに、協働的な学びの場を意図的に設けることが求められる。そして、教職員間で実践事例を共有し合い、授業改善の取組を全校的に広げていくことが重要である。